

TSK

# きゅうどうしゃ



成人を祝う会



新年会（スパハウスろっかぽっか）



ハンドベル演奏（七戸教会）



長いもの支柱立て（農福連携作業）



全員そろって（新年会）

No.62

発行日：2019年6月15日

編集者：社会福祉法人求道舎

# クローバー作業所

オンラインファンを目指して

クローバー作業所  
施設長 中津 一洋



4月からクローバー作業所の施設長になりました、中津一洋です。クローバーに勤めて7年目になります。年齢は今年で40歳です。どうやら前厄らしいです。今年の1月、まだ野辺地に雪が積もっている頃、用事を足して車に戻る際、車まであと3歩の所で足を挫きました。骨折でした。人生初骨折です。本厄が恐いんです。ただ、きれいに折れたため、手術も入院も必要なかったのが幸いでした。

4月からは心機一転頑張っています。B型では、少しずつ工賃を上げられるように取り組んでいます。その一つとして、施設外就労を行って

ます。これは工賃向上の為もありますが、社会と繋がる機会を作る事や、利用者の皆さんが色々な経験をjして、人生を豊かにしてほしいという思いもあります。生活介護の方も含め、皆さんが自分の人生を振り返った時に、クローバーに通って良かったなあと思ってもらえる施設でありたいと考えています。

B型・生活介護ともに、2人のサービスマン管理責任者を筆頭に、職員一同、日々悪戦苦闘しながら頑張っています。これからも温かい目で見守って頂けたら幸いです。よろしくお願い致します。

## 新年会

1月18日にろっつかほっかで親子レク「新年会」を行いました。また、蛸名小春さんが成人を迎えたので、新年会と一緒に「成人を祝う会」も行いました。



利用者は、前々から料理の予想やカラオケの選曲をして、新年会を心待ちにしており、新年会当日もウキウキしていました。新年会が始まると、目の前に広がるお膳を美味しそうに頬張っていました。そして、食事が落ち着いた頃からカラオケがスタートし、みんなは自慢の歌声を披露してくれました。また、温泉に入ってからリフレッシュする人もいました。成人を迎えた蛸名小春さんは、みんなからの寄せ書きと花束を買って喜んでいました。

新年会を親子レクで行うのは久しぶりでしたが、たくさんの方々に参加していただき、楽しく過ごす事が出来ました。今年度も親子レクを企画していますので、ご参加よろしくお願ひします。

## 土曜開所

クローバー作業所では、冬季の土曜開所日を利用して、芋餅作りやケーキ作り、ベビーカーステラ作りなどのお菓子作りを行いました。自分たちで作りしたお菓子は、格別美味しかったと思います。

利用者が土曜開所を楽しんで過ごせるように、今年度もお菓子作りやお出かけ等のイベントを企画していきたいと思ひます。



## 〈新職員〉

〇おおばこ作業所

小原 梨奈 (事務)



「青森弁を間違えないように頑張ります」

〇生活介護事業所クローバー  
三上山 京子 (看護職員)



「新たな職場で、皆様のご指導・ご協力を得て頑張っています。よろしくお願ひします」

社会福祉法人求道舎

七戸町

〇おおばこ作業所

〇就労継続支援B型

〇グループホームたんぽぽ

〇共同生活援助

野辺地町

〇クローバー作業所

〇就労継続支援B型

〇生活介護

〇相談支援事業所クローバー

編集者  
発行所

社会福祉法人求道舎 〒039-1251 青森県上北郡七戸町字館野三二一五 電話 0176-611363  
東北障害者団体定期刊行物協会 〒980-0874 宮城県仙台市青葉区角五郎一二二六 頒価 100円

## おおばこ作業所

地域に必要とされる施設に

おおばこ作業所  
施設長 附田 賢治



このたび、おおばこ作業所の施設長に就任致しました附田です。このような大役を仰せつかるには、まことに微力でございますが皆さまのご助言、「協力をあおぎ、業務に邁進してゆく決意ですので、どうぞよろしくお願いいたします。」

さて、平成という時代が終わり新たに令和という時代になりました。平成の時代では

社会福祉基礎構造改革が行なわれ、措置制度から契約制度への転換や社会福祉事業への企業参入が可能となる等、社会福祉事業法制定以来の大きな改正がありました。このことは社会福祉を学んだときの私にとって強く印象に残る出来事でした。社会福祉基礎構造改革から月日はだいぶ経ち、社会福祉に対する人々の意識や考えは変わってきました。現在、障がい者数、施設は増加しています。どの施設を利用し、どのサービスを受けるのか選択し契約するのは自由ですが、当たり前のことになっていきます。即ち、利用者には選ばれる福祉事業・サービスを提供していかなければ施設の運営は難しくなると言うことです。

令和という新しい時代になりましたが、今後は更なるソーシャルワークの専門性と価値を高めて多様化するニーズに対して良質で適切なサービスを提供していくことが求められます。おおばこ作業所が「選ばれる施設」であり、「地域に必要とされる施設」となるよう努力して参ります。

## クリスマス礼拝

平成30年12月21日にクリスマス礼拝を行いました。クリスマス礼拝では、職員・利用者によるハンドベル演奏・讃美歌の披露をしました。

野口牧師からのお話を聞いた後は作業所へ戻り、教会員の方々と会食をしました。昼食を頂いた後は、みんなでお茶をしたり、歓談を楽しみました。

イエスの誕生をみんなでお祝いでき、とても楽しい一日となりました。



## 成人を祝う会

平成31年1月7日に20歳を迎えた杉山明伸さんの成人を祝う会を平成31年1月11日に行いました。



佐々木秀樹さんからお祝いの言葉、施設長から記念品がプレゼントされました。これからの人生がますます素晴らしいものになりますように！

## 花見レクリエーション

平成31年4月26日は、お花見レクリエーションでした。十和田市官庁街の桜は満開！ということでしたが、残念ながら朝から雨天だったので急遽、車中から花見をしました。花見後に十和田市の道で急遽、車中から花見をしました。お弁当を食べ、イオン十和田でショッピングを楽しみました。



# 野の花のように

七戸教会 牧師 野口 忠子



られないお一人が求道舎の創設者である中津徳平さんでした。

中津徳平さん（以後「徳平さん」）は長い教員生活を退職後、1987年に私財を投じて障がいをもつ人々の授産施設を一から始められました。それも、キリスト教にはあまりなじみの無い七戸にあつて敢然とキリスト教主義を掲げ、神と人を愛する信仰を明確にして、これが求道舎の出発点だったのです。

（日）自宅で倒れ入院。それからわずか4日目の11月25日、ご家族や牧師である私が祈り見守る中を94年9カ月の地上の旅を終えました。前の週の11月15日の礼拝では大きな声で讃美歌を歌っておられたのに。

ために捧げ尽くしました。私財を投じて求道舎を立ち上げたから、財的にも社会的にも多くの困難があったことでしょう。けれども徳平さんは言頭の「野の花を見よ。神は必ず良くしてくださる。明日のことを思い悩むな」の聖書の言葉を確信していたのです。

ころがあります。先生……と言われたのです。死ぬ時は「有難う」と言ってお死にしたい、と人は願います。しかし臨終の床で自分のかたくなさを告白し悔い改めたいと言った徳平さんの姿こそ、クリスチャンの命の締めくくりのあるべき姿でありましょ。

私が徳平さんの生き方から教えられたことが二つあります。一つは「潔く生きる」こと。徳平さんは実に潔い方でした。自分のために蓄財することなく、すべてを神のため

もう一つ教えられたこと、それは徳平さんの臨終のときでした。私がベッドの側へ行くと、「先生！ 私は駄目な人間です。この期に及んでも神様の言葉に従えない傲慢な

野の花が美しい季節、野の花のように明日のことを思い悩むことなく、今日一日の命を感謝して精一杯生きたいと思います。

「野の花がどのように育つか、注意して見なさい。働いてもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたにたにはなおおなじのことではないか。（中略）だから、明日のことまで思い悩むな。」

（マタイによる福音書第6章28〜34節）

早いもので、私が七戸教会の牧師に着任して12年目、その間には多くの出会いと別れがありました。その中で忘れ

徳平さんとの別れは突然でした。2009年11月22日

## 新体制に期待する

理事長 小原 義夫

まず、法人の運営が大過なく進んでいることに感謝したいと思います。求道舎は七戸町に無認可で出発した三十年

する幹部以下の若返りを実施しました。

しました。おおばこ作業所の後任には小原梨奈を新規採用しました。これらは、クローバーの組織としての自立を促し、機動性を高めることを狙いとしたものです。

余前から、幾多の試練と変遷を経て現在の姿まで至っていますが、その過程には大変多くのの方々の貢献が寄与しています。その中で当法人一筋に永年勤めて来た伊瀬谷秀史が本年定年を迎えることを機に、この四月に施設長をはじめと

おおばこ作業所には、施設長として附田賢治（39歳）、クローバー作業所には、同じ施設長として中津一洋（39歳）を任命いたしました。この二人には法人の理事もつとめてもらうこととなりました。同じく4月より、クローバー作業所に法人の事務方をつとめていた白糠智恵子を異動配置

法人の運営は複雑さを増しております。求道舎の長年に亘る組織としての経験の蓄積の上に、若いリーダーたちが、その知恵と行動力を活かして当法人にふりかかる困難を切り拓いて行って欲しいと願っています。